

2019年度光産業技術標準化会総会

光産業技術標準化会の2019年度総会を、2019年7月24日（水）、東京一ツ橋の如水会館にて、37名の参加者の下、開催した。



会場風景

当協会副理事長・専務理事 小谷泰久の主催者挨拶の後、来賓の経済産業省 産業技術環境局 国際電気標準課 課長の中野宏和氏より、「経済産業省における標準化政策の動向」と題した講演がなされた。

中野氏の講演では、政府の経済政策の一つとしての経済産業省の標準化政策を、イノベーション、知財、連携、人材という切り口で述べられた。イノベーションの切り口では、Society 5.0 の実現を目指す中で世界の潮流としてのスピードや多様性に対応していくため、領域横断と研究開発段階からの標準化の並行実施の必要性が強調された。知財の切り口では、標準必須特許の増加による知財紛争に対応するためライセンス交渉の手引きを策定していることが紹介された。連携の切り口では、欧州と中国の間で激化しているルール形成の主導権争いに対応するため、アジア諸国との連携を強化していることが説明された。人材の切り口では、ヤンプロ（ISO/IEC 国際標準化人材育成講座）による専門家人材育成、シニア向け登録制度、CSO（Chief Standardization Officer）設置を奨励する経営層へのアプローチなどの取り組みが紹介された。



小谷泰久 副理事長・専務理事



中野宏和 課長



松本端午 常務

経済産業省 中野氏の講演の後、総会の議長として、富士通株式会社 執行役員常務の松本端午氏が選出され、松本議長のもとで、2018 年度光産業技術標準化会事業報告および 2019 年度事業計画の審議が行われ、異議なく承認された。



磯野秀樹 氏

休憩をはさみ、富士通オプティカルコンポーネンツ株式会社 シニアプロエンジニアの磯野秀樹氏より、「光トランシーバの国際標準化—デジュール標準とフォーラム標準—」と題する特別講演をいただいた。磯野氏は、クライアントサイド（データセンタ内通信）やラインサイド（インターネット光伝送網）で用いられる光トランシーバの標準化において、デジュール標準・フォーラム標準の両方に深くかかわっておられる。グローバルな標準化団体をクライアントサイド・ラインサイド別に振り分けてその特徴を解説し、Beyond テラ時代を見据えた最近の光トランシーバ標準化動向のトピックスを紹介いただいた。

IEEE (802.3) や OIF といった光通信分野の代表的なフォーラム標準化団体においては、IEC などのデジュール標準化団体とは異なる Robert's ルールと呼ばれる独特の議事進行ルールが用いられるので、これに慣れていないと議決についていくことが困難になるとの紹介は、有意義で興味深い情報であった。また、100G、400G と進展していく、クライアントサイドおよびラインサイドの光トランシーバの標準化の進展が整理されて解説された。さらに、800G を見据えて、プラガブル、オンボード、オンチップと進展していく新しい実装集積技術の潮流が紹介され、日本の果たすべき役割が明確にされた。その講演は、会場参加者の多くを占める光通信技術者のみならず、その他の分野の技術者にとっても非常に有意義な内容で、会場からの大きな拍手とともに講演は終了した。